

Y3-11

福井赤十字病院のKYT（危険予知トレーニング）活動

福井赤十字病院 事務部 医療安全推進課

○坪田 泰典、橋本 真弓

【はじめに】現在多くの病院でKYTが取り入れられている。産業界から発展したこの訓練は、あらゆる場面で危険が潜む医療の現場で働く者にとって必須である。当院では昨年、職員の医療安全意識向上の為に、看護師のみで行っていたKYT研修を組織全体として行った。その後、部署毎で日常の風景写真を基に、KYTを実施したのでその経過を報告する。

【活動経過】1.院外講師による研修会1日目、全職員を対象とした研修会を開催2日目、リスクマネージャー、MSMリンクナースを対象としたKYT演習を実施2.KYTの実践健診部、薬剤部、検査部、放射線科部、リハビリテーション科部、看護部、の6部署が、KYT基礎4ラウンド法による訓練を実践。3.各部署で訓練に使用されたKYTシート及び結果を、院内ランにて配信。4.インシデントレポートKYTの実施一部の病棟で実際のインシデント事例から、インシデントレポートKYTを実施。

【KYTの実際】放射線科部ではCT検査時のストレッチャーからCTの寝台に患者を移動する場面の写真を使って、状況把握、本質追及、対策樹立を行った後、目標を「あらかじめスタッフ間で患者の情報を共有し、移動時は、患者の状況と付属器などに注意してコミュニケーションを取りながら移動する。」とした。

【今後の課題】本院においてKYT活動は導入されたところであり、2年目の今年は活動を浸透させ組織のリスク感性を高めることであると考えている。まず手始めに、看護部MSMリンクナースを中心にKYT教材の作成を行い、各部署でのKYTカンファレンスのスタッフ参加率90%を目指している。KYTは継続して行うことが重要であり、今後は、職員の負担を減らすため短時間でKYTが行えるように工夫していきたい。また、KYTの効果をどのように評価していくかが課題である。

Y3-12

医療安全活動推進ツールとしてのデータベース

前橋赤十字病院 医療安全推進室

○川井 ひで子、山口 絵理、吉野 初恵、
大澤 忠、小林 敦、角田 貢一、
渡井 晴美、鈴木 典浩、関根 晃、
加藤 清司

医療安全活動では、次から次へと問題が生じて来るので、取り組んでいた課題がともすれば後回しになり、そしていつの間にか置き忘れてしまう、そんなことの繰り返しに陥り易い。そこで職員に依頼して、2007年9月から病院内のイントラネット上にMicrosoft Accessを用いて備忘録のようなデータベースを作成してもらった。Microsoft Accessはデータベースを利用するだけなら、病院内のどの端末からも可能なので使い勝手が良い。データベースは発生した問題とそれに対応する数々の活動を関連付けた簡単な構造をしている。現在、毎週行っている医療安全推進室のカンファレンスはもとより、病院報告日報としてまた改善活動報告書として利用しているので紹介する。

利点 (1) 毎日の医療安全活動の中で、問題と感じたらすぐにどこの端末からでも入力できる。(2) その問題に関する対応活動を入力しておくことで、日報として病院報告できる。(3) 改善活動報告書作成が容易になった。(4) 安全カンファレンスを院内のどこで開催しようと、プロジェクターを用意すれば参照できる。(5) 必ず問題がリストアップされるので、強制的に思い出させてくれる。(6) 職員の自作なので、可能な限り要望には応えてもらえる。

欠点 (1) 職員の自作ソフトであり、バグが多い。(2) バージョンアップ等も個人頼みであり、システム維持の保証がない。(3) 素人の能力を超える機能は求められない。(4) セキュリティーも素人レベルであり、脆弱である。